



市史へんさん

第 273 号

令和 3 年 12 月 1 日
小松市史編纂担当
へんさんだより

師走を迎えました。今年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、これまでにない金メダルの獲得に、世間は大いに沸きました。一方で、コロナ禍での戦いがあり、国民挙げて感染拡大防止に努めました。その甲斐もあり、ようやく県内は感染者が 0 の日が続くようになり、国内でも激減しました。しかし、また新たな変異株が発生し、油断を許さない毎日です。ワクチンの 3 回接種も叫ばれ、今一度、感染予防に努めましょう。

そんな中、先月は、小松市でも、日本遺産サミットを始めとするビックイベントが開催されました。編纂事業でも、市史講座が 1 年ぶりに開催されました。当市の近現代史をふり返りながら、現在の町づくりを探りました。下記にその一端をご紹介します。皆さんと SDGs を一緒に考える機会になればと思います。

第 95 回 市史講座

「SDGs を目指した町づくり～小松の近現代史をふり返る～」



講師：平野 優 氏 (新修小松市史専門委員)



近現代史は、明治維新という幕藩体制から**中央集権国家**への大転換により幕明けとなる。開国によって、欧米と対抗するため、国家は**富国強兵策**を打ち出し、そのためには、健康な国民・兵士が必要として、**健民健兵政策**を進めていく。保健所の開設、伝染病・窮民対策がそれである。

こうして国家は、日清・日露戦争を皮切りに、対外戦争に挑んでいくことになるが、その中で、地域自体の力を高める必要性から、**町村合併**、**市制施行**が進められ、**地域分権社会**が確立していった。しかし、地域力が増せば国家との対立は必然的に起こり、この相克をどのように解決するかが近現代史の歩みでもあった。

戦争が終結すると、敗戦後の窮乏から国家全体が混乱し、復興のための対策が講じられた。当市でも、戦前の主産業だった繊維・藁草・銅の生産が落ち込み、人口も、昭和 20 年代後半には 6 万 2 千人まで減少した。その対策として、昭和の大合併が実施され、大小松市の建設を目指した。まず国民が、「**健康で文化的な生活を営む権利**」(憲法 25 条)を保障するために、**国民健康保険**の実施、医療・福祉機関の設置、また教育面においても新制小・中学校、高等学校の設立や高等教育機関、社会教育機関が設けられた。また、産業都市に向けて、インフラの整備が進められ、**国道 8 号線**、**小松バイパス**、**北陸自動車道**などの交通網が整備され、**小松明峰駅**が新設され、人口増加に伴う飲料水・生活水の必要性からダム建設が進められ、**大日川ダム**・**赤瀬ダム**が完成、また、食糧増産政策として、**加賀三湖干拓事業**が実施された。

当市の開発事業として注目されるのは、**小松飛行場**と**尾小屋鉱山**であろう。小松飛行場は、航空自衛隊と民間との併用運用が成立し、昭和 36 年(1961)にターミナルビルの完成と共に営業が開始された。しかし、一方で、**騒音**がもたらす被害により住民運動に発展した。また、尾小屋鉱山では、排出される**鉱毒**による被害が増大し、更には、**カドミウム汚染問題**も起こって農民たちを苦しめた。こうした環境問題は、騒音については防音対策や集団移転に取り組み、カドミウム汚染は産米補償すると共に、**土壌改良対策**を 12 年間掛けて実施した。

開発と環境もまた相克しながらも、当市は幾多の試練を乗り越え、今日では、飛行場は、「**国際空港**」として、また、「**空の守りの要**」として飛躍し、環境回復によって、当市は、「**環境王国**」の認定を受けるまでになった。

現在、世界の各国が、「**2030 年までに、達成すべき、私たちができる 17 の目標**」を掲げた **SDGs** の実現を目指している。当市でも **SDGs** を目指した町づくりを実践中で、**北陸新幹線開業**が間近に迫り、駅周辺施設の整備が進んでいる。市民一人ひとりが自分たちのできる目標を見つけて、今日から始めてみよう!!

『新修 小松市史 資料編 18 近現代』第2・3章の見どころ

明治21年(1888)の町村制施行により第2章では小松町の、第3章では小松町以外の地域の政治行政に関する史料を収録した。

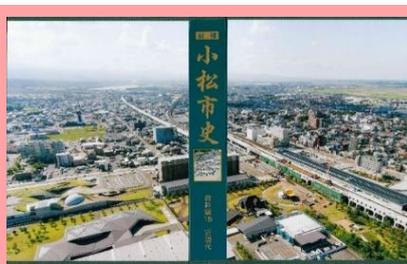
第2章では、主に、町会関係の史料を中心に紹介する。町村の制施行当初は、国や県、郡の政策に基づいて小松町が制定した条例や規則が多く、当時の日本が中央集権国家であることを感じさせる。そのような状況下で町村行財政



稚松尋常高等小学校(大正5年(1916)に竣工も昭和5年(1930)の大火で類焼)

の最も比重を占めたのが教育、特に、小学校関係であった。公立小学校設置の経費は町村負担であった。(写真上)この他、「救療」すなわち貧困層に対する医療政策は、戦前の行政の重要領域であり、また、町を清潔に保つための施策、米価騰貴への価格安定政策も重要で、外国米購入、廉価販売などの対策が立てられた。

第3章では、町村制施行から市制発足までを3節に分け、第1節は、町村制の混乱を示す史料の他、能美郡の政治情勢を西尾村長に選任された石黒智長が記した『石黒村長日記』から登載する。第2節は、明治40年(1907)に



『資料編 18 近現代』

特別価格 **3,900 円(税込)**
(12月まで)

販売所 市史編纂担当
うつのみや
明文堂書店

2町42村が2町23村に町村合併が行われるが、町村行政の様々な運営努力を史料から紹介する。第3節は、第一次世界大戦後の戦間期の政治状況を取り上げ、憲政擁護運動が小松で起こっていたことを示す新資料や、昭和恐慌期の村財政の逼迫した状況、村民の困窮の様相を掲載する。

<11月の活動状況>

- ・11月4日(木) 通史(中世)部会
- ・11月6日(土) 禅林寺・龍泉寺資料撮影(福井県)
- ・11月8・9・26日 酒井長平家文書調査
- ・11月10日(水) 石部神社文書目録作成
- ・11月26~28日 ブラジル移民関係資料調査(神奈川県)
- ・11月28日(日) 第95回市史講座

<12月の活動予定>

- ・12月9日(木) 通史(近世)部会
- ・12月12日(日) 通史(近現代)部会
- ・12月16日(木) 通史(中世)部会



<12月のカレンダー> 開室時間 10:00~17:00(火~金)/9:00~17:00(土)

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
11/28	11/29	11/30	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1/1

* は市史編纂担当の事務局は閉室しています。

小松市史編纂担当 (小松市立図書館 2階)

- ・住所 〒923-0903 小松市丸の内公園町 19 芦城公園内
- ・TEL 0761(24)5315 ・FAX 0761(22)9763
- ・E-mail hensansitu@city.komatsu.lg.jp
- ・URL <https://www.city.komatsu.lg.jp/soshiki/toshokan/shishihensan/index.html>

